

【はじめに】

ナスの主要害虫ミナミキイロアザミウマは近年薬剤への抵抗性を備え防除が困難になりつつある。しかし、従来の農薬中心の防除では薬剤の経済的負担や作業者の肉体的負担が大きく、農薬に頼りすぎない防除方法の利用が求められている。

本試験ではアザミウマの土着天敵ヒメハナカメムシ類を定着させる天敵温存植物を利用する方法に着目した。天敵温存植物としてフレンチマリーゴールドとブルーサルビアを選び、それぞれをナスと共に植栽し、通常の栽培との防除効果を比較した(図1)。



図1 試験状況(左:フレンチマリーゴールド、右:ブルーサルビア), 10月9日撮影

【試験方法】

試験区は慣行区を第1区, フレンチマリーゴールド植栽区を第2区, ブルーサルビア植栽区を第3区とし, 品質(秀品率), 防除回数, アザミウマ被害果率, 20花あたりのヒメハナカメムシ発生数について調査を行った。

試験期間は収穫初めの2014年6月18日から収穫を打ち切った10月27日までとし, 8月10日の台風11号到来を境として前期, 後期に分けた。

【試験結果】

1) 品質(秀品率)

台風11号到来までの期間においては第3区が最も高く, 台風後においては第2区が最も高かった。第3区において後期の品質低下が見られたのは, 第3区が土地の水はけが悪く, 台風11号到来による暴風や大雨等で被害を受けたためと考えられる。

2) 防除回数

各区に差が見られなかった。これはアザミウマ多発時の8月に台風が到来しナスが収穫できなくなり, 葉も多くが落ち, 被害が観察しにくかったためと考えられた。

3) アザミウマ被害果率

台風前後とも第3区が最も低く, 第2区が最も高い結果となった。第2区が高くなったのは周辺でアザミウマ類が発生する果菜類が栽培されていたため被害果軽減に結び付かなかったことが推察された。

4) ヒメハナカメムシ数

台風前は第3区, 台風後は第2区が最も多かった。台風後に第2区が最も多かったのは台風通過後もフレンチマリーゴールドが生育旺盛でヒメハナカメムシ数が確保されたためと考えられた(図2)。

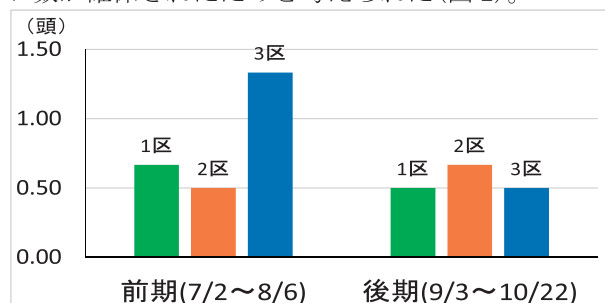


図2 ヒメハナカメムシ数(20花あたりの平均)

ヒメハナカメムシ数の結果からフレンチマリーゴールドとブルーサルビアは天敵温存植物としての役割があることが確認できたと考える。ただし, 減農薬, 労力削減の点では更なる調査が必要である。

また全体の結果から, ブルーサルビアが天敵温存植物としてより効果があると考えられた。

【おわりに】

本試験で得られた知見をもとに, 地域農業の更なる発展に貢献していきたいと考える。

(平成26年度卒業生 生産技術コース 川野 真一)

第4号 目次

- 1頁 レンコン新品種「阿波白秀」の育成
- 2頁 アリウム・コワニーの切り花年内出荷技術
- 3頁 スダチ黄化症状の原因と対策について
- 4頁 阿波尾鶏への飼料用米給与試験について
- 5頁 アシアカエビの小ロット活魚輸送
- 6頁 春夏ニンジン輸送へのバルクコンテナ導入が作業性向上に与える効果
- 7頁 鳥獣被害対策の先進事例について
- 8頁 天敵温存植物を用いたナスのアザミウマ対策

徳島県立農林水産総合技術支援センターニュース  
第4号

平成28年(2016年)1月

編集・発行 徳島県立農林水産総合技術支援センター  
〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井字石井1660

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/>